

25

『アルジャーノンに花束を』

ダニエル キイス / 著
早川書房 (2015年)



この本は主人公チャーリー・ゴードンが天才になるお話です。これだけ聞いたらただの面白くない本ですがその前にチャーリーがどんな人だったのか、なぜ天才になろうと思ったのかというのが読んでいて分かります。天才になるまでの過ていやその間に起こる事などこの本でのおもしろいところはたくさんあります。ぜひ、心理学にきょうみがある方や気になった方読んでみてください。

(三中・新庄 理彩さん)

26

『すべての恋が終わるとしても』

冬野 夜空 / 著
スターツ出版 (2022年)



SNSで大きな話題となっている140字の短編集です。詩のような感覚でサクサク読めます。この作品は著者の冬野夜空さんがインターネットで投稿していた小説を書籍化。短いながらも共感できる恋愛ドラマ、セリフの数々に「30秒で泣ける」とロコミで話題となっていました。共感、感動を得たい方はぜひお読みください。

(二中・今西 結愛さん)

27

『変な家』

雨穴 / 著
飛鳥新社 (2021年)



変な家は、最初は、なぞが多くて、そのなぞを、まどろ図から探すのがとてもおもしろくて、最後は、なぞが解けて、だからこういうまどろ図なんだとなるミステリー小説です。

(四小・宮本 和季さん)

28

『かがみの孤城』

辻村 深月 / 著
ポプラ社 (2017年)



こころたちの集められた城のなぞや、願いの部屋に入るためのかぎさがし、城に集められた七人の共通点。読めば読むほどなぞがとけていっておもしろいです。

(七小・田村 里衣紗さん)

29

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』

汐見 夏衛 / 著
スターツ出版 (2016年)



中学二年生の百合は、母親とケンカをして家を飛び出してしまう。朝、目が覚めるとそこは第二次世界大戦中の日本だった。百合は、そこで出逢った彰に助けられるが、彰はもうじき戦地へ飛びたたなくてはならなかった…。

30

『青の王』

廣嶋 玲子 / 著
東京創元社 (2017年)



大砂漠にある都ナルマーン、少年ハルーンと塔に閉ざされた少女、ここから始まるファンタジーに目が離せません! 魔族に魔物に虫、魅力的なキャラクター達と人間の欲…次の展開にワクワクが止まりません。ぜひ読んでください。

(一中・小野 菜月さん)

31

『マスカレード・ホテル』

東野 圭吾 / 著
集英社 (2011年)



都内で起きた連続殺人事件。残された暗号から次の犯行場所はホテルだと判明します。そこで刑事・新田はホテルに潜入し捜査をすることになります。事件は無事に解決するのでしょうか。

32

『告白』

湊 かなえ / 著
双葉社 (2008年)



この本は、中学校の教員がある事件についての衝撃的な「告白」をする所から始まります。その教員が担当していたクラスの生徒からの「告白」でどんどん真実が明らかになっていくところや、衝撃のラストが魅力です。読み終わった後は考えさせられるはず。ぜひ読んでみてください。

(三中・樋口 水さん)

ふっさっ子が選んだ おすすめの本 32冊

～ふっさっ子のみなさんへ～

「ふっさっ子におすすめしたい!」という本を、学習用iPadや市内の図書館で、ふっさっ子のみなさんから教えてもらいました。

このリーフレットで紹介しているのは、集まった1,893冊の中から選んだ、特におすすめしたい本32冊です。

令和4年には「福生市の先生が選んだ100冊」をリーフレットで紹介しています。あわせて、気になった本をぜひ読んでみてください。

リーフレットで紹介している本の中には読書リーダーがコメントを書いた本もあります。☆のマークがついているので探してみてくださいね。

※読書リーダーとは

図書館では、令和6年8月に、小学5年生から中学3年生を対象に、読書リーダー養成講座を開催しました。講座受講後、認定を受けた読書リーダーは、図書館を拠点に本と人を結び、読書の魅力を発信する取組で読書活動を推進します。



ぶুকん
©いとうひろし

